



学校だより

福生一小ホームページ <https://fussa-1e.hs.fussa.school/>

令和6年11月1日
11月号
福生市立福生第一小学校
統括校長 高瀬 智子



プロセス（過程）を認めほめる

統括校長 高瀬 智子

先月の運動会では、多くの保護者・地域の方に参観いただき、子どもたちに、大きな声援をお送りいただきありがとうございました。また、前日の児童用テント設営、また、終了後のテント等の撤収など、多くの力をいただきました。運動会がこのように保護者の方にもお手伝いいただき行えていることに感謝申し上げます。

子どもたちは9月の終わり頃から、運動会に向けて練習をしてきました。練習を繰り返し、どこに気を付けて動くか、どのように動けばよいのかなど、指導や励ましを受けながら、努力を重ねて上達し、当日を迎えました。子どもたちのきびきびとした動き、真剣な眼差し、生き生きと一生懸命に取り組む姿に感動した方が多くいらっしゃったことと思います。

子どもたちには、運動会での経験をさらにこれからの成長につなげてほしいと考えます。

さて、10月中旬に脳科学を研究されている東京大学薬学部 教授 池谷 裕二 先生の講演を聞く機会がありました。子どもの成長に関わる様々なお話がありましたが、その中の一つを紹介します。

子どもへの声掛けについて

1 結果だけをほめる 2 努力した過程をほめる

どちらが、その後、伸びていくかというものです。

お気付きと思いますが、より伸びていくのは、2の「努力した過程をほめる」です。

努力した過程ですので、結果が出ていなくても、努力したことそのものをほめられると、次もやっというと思い、努力を続けるということです。

では、1の「結果だけをほめる」は、どうかというと、結果のみにとらわれ、努力の大切さはあまり感じないようになり、自分が結果を出せそうにないと思うと、初めからやろうとしない、あきらめてしまうなどの行動が見られることがあるとのことでした。

全ての子どもがこれに必ず当てはまるというわけではないかもしれませんが、子どもの取組の状況をよく見て、それを認め、ほめるということは、大切であると改めて感じました。結果に目がいきやすいですが、だからこそプロセス（過程）を大人はしっかりと見ていく必要があります。

これは学校でも家庭でも同じことだと言えます。子どもたち一人一人が自分の力を伸ばしていけるように、学校・家庭・地域がともに、子どもたちの努力を認め励ましていくようにしていきたいと考えます。



(1・2年生：アニマル玉入れ)



(3・4年生：80m走)



(5・6年生：Progress of Fussa I：II)